

平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年8月14日

上場会社名 M-フルッタフルッタ

上場取引所 東

コード番号 2586 URL <https://www.frutafruta.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員CEO (氏名) 長澤 誠

問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員CFO (氏名) 杜山 悦郎

TEL 03-6272-3190

四半期報告書提出予定日 平成27年8月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第1四半期の業績(平成27年4月1日～平成27年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	682	—	△84	—	△48	—	△31	—
27年3月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	△30.97	—
27年3月期第1四半期	—	—

(注)1. 当社は平成27年3月期につきましては、第1四半期財務諸表を作成してしないため、平成27年3月期第1四半期の数値及び平成28年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率の記載をしておりません。

2. 27年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	2,421	—	1,167	—	48.2	—	1,156.67	—
27年3月期	2,490	—	1,195	—	48.0	—	1,184.00	—

(参考)自己資本 28年3月期第1四半期 1,167百万円 27年3月期 1,195百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,000	19.6	128	20.0	118	△66.1	73	△63.5	72.79

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年3月期1Q	1,009,400 株	27年3月期	1,009,400 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

28年3月期1Q	— 株	27年3月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期1Q	1,009,400 株	27年3月期1Q	— 株
----------	-------------	----------	-----

(注) 当社は平成27年3月期においては、四半期財務諸表を作成していないため、平成27年3月期第1四半期の「期中平均株式数」を記載しておりません。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご利用ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策等の効果により、企業収益や雇用環境の改善傾向が続いていることから、回復が遅れていた消費税増税後の個人消費にも持ち直しの兆しがみられた一方で、円安による物価の上昇や海外景気の下振れリスク等により、先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、円安水準が高止まりするなか、原材料価格高騰による商品の値上げや消費者の節約志向による慎重な購買姿勢が継続し、引き続き厳しい状況が続きました。

このような環境下、当社は、『自然と共に生きる』という企業理念のもと、アサイーをはじめとしたスーパーフード関連商品の販売拡大及びアグロフォレストリー・マーケティングの強化に取り組んでまいりました。当第1四半期累計期間は、大手百貨店への催事に積極的に出店するなど、国内での販路拡大とアサイー及びアマゾンフルーツの認知度向上に取り組みました。また、当初より当第1四半期累計期間は、流通在庫の調整期間と位置づけていたため、例年投入していた春夏新商品の発売を行いませんでした。一方で、流通在庫等の調整が完了する当下半期にスーパーフード関連25アイテムの新商品販売を計画しており、売上拡大を見込んでおります。この結果、予算を若干下回るものの、ほぼ想定通りに推移致しました。

当社は輸入食品製造販売事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。事業部門別の業績は次のとおりであります。

ナショナル・ブランド事業部門（NB事業部門）に関しては、主力のチルド飲料商品の販売拡大に加え、冷凍商品の販路拡大に注力いたしました。チルド飲料では、平成27年3月にリニューアルした主力商品（エナジー、ベーシック、ビューティー）の店頭プロモーションの強化、リテール・CVSとの新素材（チアシード等）を使ったコラボ商品の投入等で新たな顧客層の獲得に取り組みました。また、冷凍商品は従来品に平成27年3月に発売した「ピタヤボウルミックス」を加え取扱店を増やしましたが、長梅雨など天候不順の影響も受け、当第1四半期累計期間への寄与は限定的でした。この結果、NB事業部門全体の売上高は371,278千円になりました。

アグロフォレストリー・マーケティング事業部門（AFM事業部門）に関しては、大手スペシャリティーコーヒーチェーンをはじめとした外食店でのアサイーデザートメニューが好調に推移しました。食品メーカーでのアサイー原料採用が一巡したこともありアサイー原料の大きな伸びは見られませんでした。大手菓子メーカーへのアグロフォレストリー産カカオ豆の販売は計画通り進みました。この結果、AFM事業部門全体の売上高は240,151千円になりました。

ダイレクト・マーケティング事業部門（DM事業部門）の、直営店舗に関してはアマゾンフルーツメニューを拡大し活性化を図りました。WEB通販に関しては定期購入顧客は堅調に推移しておりますが、通販独自の販促実施が少ないこともあり低調に推移しました。この結果、DM事業部門全体の売上高は70,989千円になりました。

また、営業外損益に関しましては、デリバティブ取引の時価評価による評価益35,015千円が発生しております。この結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高は682,419千円となり、営業損失は84,829千円、経常損失は48,781千円、四半期純損失は31,262千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産に関する分析

(資産)

当第1四半期会計期間末における総資産の残高は、前事業年度末より68,715千円減少したことで、2,421,570千円となりました。流動資産の残高は、102,932千円減少して、2,139,938千円となりました。この主な要因は、その他流動資産が57,310千円増加した一方で、現金及び預金が108,510千円減少、売掛金が66,420千円減少したこと等によるものであります。固定資産の残高は、34,217千円増加して、281,632千円となりました。この主な要因は、有形固定資産が1,098千円減少した一方で、投資その他の資産が35,468千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第1四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末より41,137千円減少したことで、1,254,023千円となりました。流動負債の残高は、163,707千円減少して、954,845千円となりました。この主な要因は、資金調達により短期借入金が100,000千円増加した一方で、未払法人税等が99,492千円減少、買掛金が96,580千円減少、1年内返済予定の長期借入金が60,220千円減少したこと等によるものであります。固定負債の残高は、122,570千円増加して、299,178千円となりました。この主な要因は、資金調達により長期借入金が148,940千円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末より27,577千円減少したことで、1,167,547千円となりました。この主な要因は、四半期純損失の計上に伴い利益剰余金が31,262千円減少したこと等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期会計期間においては、例年の春夏新商品を今期は投入しなかったこと等から予算を若干下回るものの、ほぼ想定通りに推移致しました。

当第1四半期会計期間は、当初より流通在庫の調整期間と位置づけ、当下半年にかけて計画しているスーパーフード関連25アイテムの新商品販売を成功させること及び来期のブラジルオリンピック開催に伴う市場拡大に向けてより一層の拡販を図る為の市場環境を整えてきました。

一方で、当第2四半期会計期間以降は、上述の高付加価値、国内初の魅力的な商品群を集中投入して盛り上がるスーパーフード市場での占有率を高めると同時に利益率の改善を図って参ります。詳細につきましては、同日開示の「新商品発売予定のお知らせ」をご参照下さい。また、販売費及び一般管理費につきましては、期初より全社的なコントロールを強化しており、概ね計画通りに推移致しました。以上を踏まえて、平成28年3月期の業績予想につきましては、平成27年5月15日に公表致しました通期業績予想に変更ございません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	506,641	398,131
売掛金	394,041	327,621
商品及び製品	366,899	365,530
原材料及び貯蔵品	913,758	929,813
その他	61,530	118,841
流動資産合計	2,242,871	2,139,938
固定資産		
有形固定資産	28,812	27,714
無形固定資産	7,216	7,063
投資その他の資産	211,386	246,854
固定資産合計	247,415	281,632
資産合計	2,490,286	2,421,570
負債の部		
流動負債		
買掛金	312,095	215,514
短期借入金	400,000	500,000
1年内償還予定の社債	30,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	144,720	84,500
未払法人税等	101,022	1,529
賞与引当金	13,148	8,139
資産除去債務	—	1,470
店舗閉鎖損失引当金	—	1,345
その他	117,567	102,347
流動負債合計	1,118,553	954,845
固定負債		
社債	25,000	—
長期借入金	140,100	289,040
資産除去債務	11,507	10,138
固定負債合計	176,607	299,178
負債合計	1,295,161	1,254,023
純資産の部		
株主資本		
資本金	363,340	363,340
資本剰余金	401,825	401,825
利益剰余金	422,844	391,582
株主資本合計	1,188,010	1,156,747
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	7,114	10,799
評価・換算差額等合計	7,114	10,799
純資産合計	1,195,125	1,167,547
負債純資産合計	2,490,286	2,421,570

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

	当第1四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
売上高	682,419
売上原価	473,449
売上総利益	208,970
販売費及び一般管理費	293,799
営業損失(△)	△84,829
営業外収益	
デリバティブ評価益	35,015
その他	2,680
営業外収益合計	37,696
営業外費用	
支払利息	1,596
その他	52
営業外費用合計	1,648
経常損失(△)	△48,781
特別損失	
店舗閉鎖損失引当金繰入額	1,345
特別損失合計	1,345
税引前四半期純損失(△)	△50,126
法人税、住民税及び事業税	△1,147
法人税等調整額	△17,716
法人税等合計	△18,863
四半期純損失(△)	△31,262

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第1四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

当社は、輸入食品製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。